

# 新型コロナウイルス流行期に、 診療所でできる感染対策



中山久仁子 著 (マイファミリー クリニック蒲郡院長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

Introduction ..... p2

はじめに ..... p4

1 COVID-19 の臨床像 ..... p5

2 感染対策の基本 ..... p6

3 診療所でできる実際の感染対策と管理 ..... p14

4 受診時の患者への説明 ..... p21

5 診療所職員の体調管理と陽性者の職場復帰 ..... p23

6 インフルエンザシーズンを迎えるにあたって ..... p26

さいごに ..... p28

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツ  
を制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

# Introduction

## 1 新型コロナウイルスの特徴

疾患名：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

病原体名：SARS コロナウイルス 2 (SARS-CoV-2)

- ・主な感染経路は飛沫感染と接触感染，特殊な環境でエアロゾル感染がある。
- ・感染から発症まで5～7日，発症約2日前から1週間後まで感染性がある。
- ・8割が感冒様症状で自然治癒，2割が重症化し5%が重篤化する。高齢者や基礎疾患のある患者で重症化しやすい。軽症でも症状の遷延化がある。

## 2 感染対策の基本

- ・感染症は「感染症の3要素」(①感染源，②感染経路，③宿主の感受性)を抑えることで，予防することができる。
- ・COVID-19の感染経路は主に飛沫，接触感染であり，その感染経路に沿った対策が効果的である。
- ・標準予防策が基本である。標準予防策のうち，手指衛生と個人防護具が特に重要である。
- ・手指衛生は，手洗いまたはアルコール手指消毒。
- ・診療の内容によって標準予防策に必要な個人防護具を選択し追加する。

## 3 診療所でできる実際の感染対策と管理

- ・受診前に情報提供する。患者が受診しやすいように，あらかじめ疾患について，また受診の方法等を伝える。
- ・診療所内が密にならないように，受診日程を予約制にしたり，診療所へ事前連絡してもらうよう伝える。
- ・受診時，受付での対策として，診療所に入る人の健康確認や密にならない工夫をする。

- ・症状のある患者と他の疾患の患者との「動線」または「時間」を分ける。
- ・診察中は標準予防策を徹底する。予防策を徹底すると、COVID-19の患者であると後でわかった場合でも、濃厚接触者には当たらない。
- ・環境の消毒も大事である。一人ひとりの診察後に消毒をする。
- ・検査のための検体採取は採取方法によって感染対策が異なる。
- ・オンライン診療を活用。接触せず診療することが究極の感染対策になる。

#### 4 受診時の患者への説明

自宅での家族内感染の予防策

- ・家族内感染が多いため、感冒症状があるときの自宅での過ごし方が、感染予防には重要なポイント。それらを受診患者や家族に丁寧に説明する。

#### 5 診療所職員の体調管理と陽性者の職場復帰

職場での感染対策の実際、職員の体調管理

- ・医療機関はCOVID-19の患者への曝露の機会が多い。職員が感染しないための対策や感染した職員の対応を考える必要がある。
- ・受診患者にCOVID-19の陽性が出た場合の対応も知っておきたい。

#### 6 インフルエンザシーズンを迎えるにあたって

これからの冬の時期は感冒症状の患者が増えるため、感冒症状の患者の診療を、感染対策を十全に取って行うことが求められる。一方で、ウイルスは目、鼻、口から体内に入ることがわかっており、感染経路を理解して対策を行うことで十分に感染を予防できる。

# はじめに

診療所は、プライマリ・ケアを提供する場所として、地域の住民の方々の健康管理を行っている。日常的な体調変化の際に患者が受診するのはプライマリ・ケア医であり、その受診理由で最も多いのは、発熱、咳、鼻汁、咽頭の症状である<sup>1)</sup>。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の症状も主に発熱、咳といった感冒様症状であり、診療所で最も多く診療する症状にほぼ一致するため、今後も診療所に来る患者が新型コロナウイルスに感染している可能性があるとして、感染対策を行う必要がある。

COVID-19の感染対策を行う目的は次の通りである。

## ① COVID-19の感染を拡大させない

医療機関は感染者が多く集まる場所である。医療機関受診者間の感染拡大を予防する対策が必要である。

## ② 医療従事者が感染しない

医療従事者は感染者と接する機会が多いため、感染しないように対策が必要である。

## ③ 日常診療への影響を減らし、定期受診が継続できるようにする

病気はCOVID-19だけではない。他の急性疾患や慢性疾患の定期受診を継続できるようにするために感染対策が必要である。これは地域住民の健康管理にもつながる。

## ④ 他の感染症も広めない

COVID-19への感染予防策を実施することで、他の感染症の流行も予防できる。

本コンテンツでは、COVID-19の患者が診療所を受診する可能性がある今、診療所でどのように感染対策を行うかについて解説する。

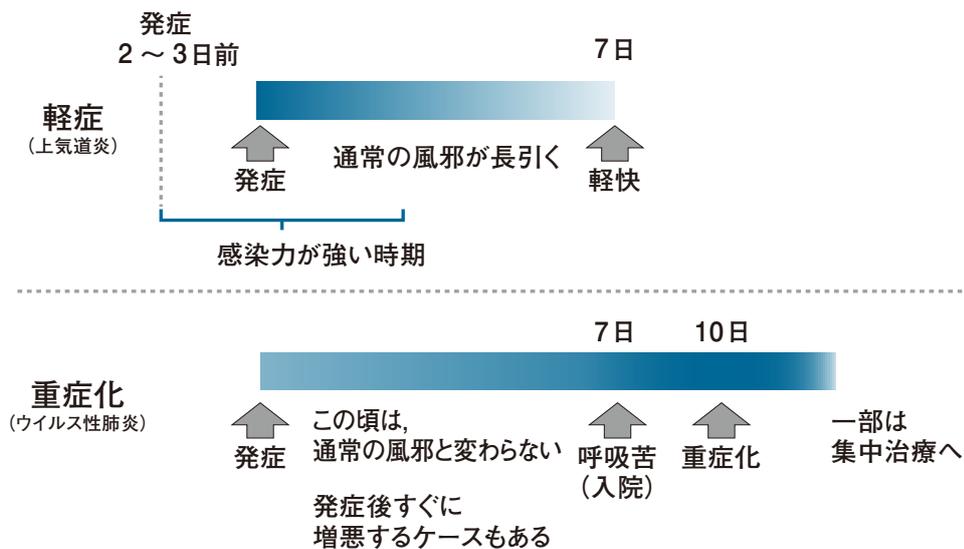
# 1 COVID-19の臨床像

COVID-19の初期症状は感冒やインフルエンザに似ている。感冒は一般的に、発症から3~4日目までをピークに改善傾向に転じるが、COVID-19では症状が長く経過するという点で異なる。また、発症から約7日目前後から症状が急速に悪化することがある<sup>2)</sup>。

臨床像は次の通りである(図1・2)<sup>3)4)</sup>。

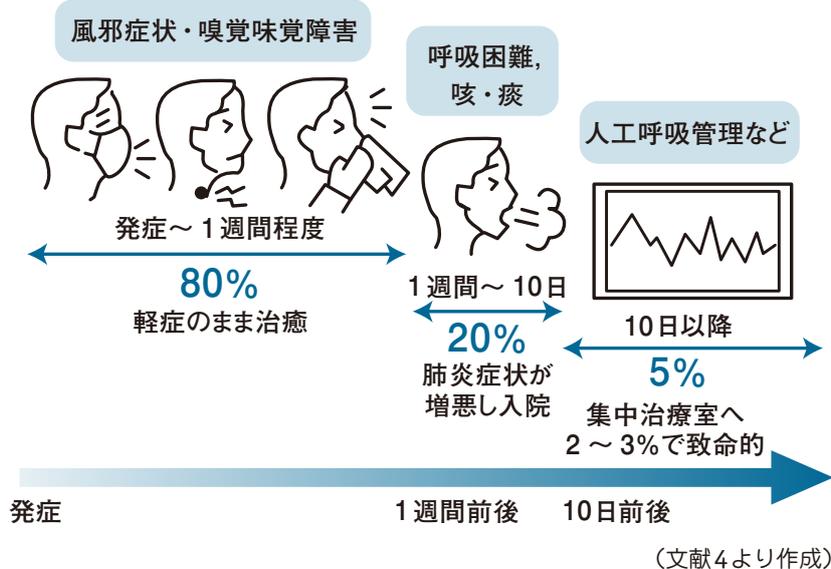
- ①感染から約5日間(1~14日間)の潜伏期
- ②感冒様症状(発熱, 咳, 喀痰, 咽頭痛, 鼻汁等), 倦怠感, 嗅覚・味覚異常, 嘔吐, 下痢等の症状
- ③症状が比較的長く, 約7日間持続する
- ④無症状の感染者もいる
- ⑤約8割の患者は, 自然に軽快して治癒する
- ⑥約2割の患者に, 肺炎等を合併する
- ⑦特に, 高齢者や基礎疾患がある場合は重症化しやすい
- ⑧肺炎に進展した患者のさらに一部が, 重篤化して集中治療や人工呼吸を要する

図1 COVID-19の一般的な経過



(文献3より作成)

図2 臨床像におけるCOVID-19の経過



## 2 感染対策の基本

### 1. 感染対策の基本

感染症は「感染症の3要素」を抑えることで、感染症を減らし予防することができる。その3要素には、それぞれに対策がある(表1)。

表1 感染症の3要素と対策

感染症の3要素	対策
① 感染源 ウイルスを含んでいるもの	感染源の排除
② 感染経路 飛沫感染, 接触感染, エアロゾル感染など	感染経路の遮断
③ 宿主の感染性 年齢, 基礎疾患, 免疫状態など	基礎疾患の治療, 抵抗力の向上, ワクチン

感染症を成立させないためには、3要素をそろえないことが大切だが、感染源と宿主の感染性をゼロにすることは困難である。そのため、ここでは主に感染経路対策について解説する。

### 2. COVID-19の感染経路と期間

ウイルスは目, 鼻, 口を通して人の体内に入る。そして, それらの場所からウイルスが入る経路と感染性のある期間は, 次の通りである。